

この子らと

令和7年8月号

命輝く子ども

わくわく鹿児島中央認定こども園

園長 川口公男



ねた犬に ふわとかぶさる 木の葉かな
どんぐりに ねんねんころり ころりかな (小林 一茶)

「母の声は金の鈴の音」

児童文学作家で、椋鳩十先生、『大造いさんとがん』、『マヤの一生』など動物愛にあふれた作品が数多く書かれておられます

椋鳩十先生の言葉です。



「母が声を出して読むというのは、極めて大切なことである。なぜなら、声の中には、必ず心があり、心を込めて読めば、優しい母の声が子どもの中に入り込んでいくのである。

さらに、読む物語によって、ある時は心の底から笑い、ある時には、主人公に同情して涙を流し、感動することを繰り返すことによって本当に懐かしい思い出とともに母の声は、子どもの心にしっかりと焼き付いていくのだ。この懐かしい母の声は、音を立てて子どもの心になり続けるのである。この声はある時は、優しく温かく、ある時は、強く子どもの心をなぐさめ励ますのである。

心になり続ける(金の鈴の音)は、豊かな人間形成において、極めて重要な要素である。」

卒園生が来園「新一年生の集い」

職員は、「教育・保育に対する考え方は確かなものか、子どもの成長につながる教育・保育を進めているか、愛情あふれる言動をしているか」などを保護者の皆様に直接参観して評価してもらいたいという願いをもって保育参観を行っています。

園長であるわたくしは、身びいきかとも思いますが、どのクラスの職員にも子どもたちへの教育愛と気概を感じ、うれしく思うことでした。

人は皆、誰一人として例外なく、素晴らしいオンラインワンの存在(教育研究家 七田真)



園での思い出のアルバムを大切に持ち帰った新一年生の子どもたち。がんばっていることは、勉強、夏休みの宿題、算数、国語、漢字、サッカーなどと年長ぞう組の子どもたちに教えてくれました。

卒園して4か月、一步一步、新たな世界の色に染まっていく姿に、少し、寂しさを感じました。

子どもたちの未来に幸あれと祈ります。